

有朝う

—高橋英雄 詩集—

第十二号

神の恩寵

おんちよう

令和3年9月1日

令和3年9月1日

令和3年9月2日

我生きるにあらず

神 生きるなり

神の恵みが生きるなり

我は我ならず

神の慈しみ

神の恩寵なり

有難きは神の慈しみ

尊きは神の恩寵

只ただ五井先生をたたえ

救世の大光明をたたえる

秘訣

①

妻にしてもらった

どんな些細なことにも必ず

「ありがとう」と云おう。

口に出して云おう。

あなたの変化に妻は目を見はり

あなたを見直すだろう。

「ありがとう」を連発しよう

その氣持ちは愛から出発している。

妻は敏感にそれを感じる

必ず「ありがとう」の返礼をくれる

「ありがとう」で交流しよう

秘訣

②

妻にほめられた時

とても嬉しかった。

髪型が変わったことに

私がついて口にしただけでも

妻はよろこんだ。

どんな小さなことでも

気づいたら妻をほめよう。

妻をほめる回数が増えれば増えるほど

妻の嬉しさが増える。

それだけで楽しい。

夫婦は相和してゆく。





変わる

令和3年8月31日

私の感覚は鈍（にぶ）い
 だから微妙な波動の神様の姿が見えない。
 そんな私でも最後の時が来ると変わる。
 すべてに敏感となり
 見えなかったものが見え
 聴えなかったものが聞こえるようになる。
 風のそよぎにも神の愛を感じ
 小鳥の啼き声にも神の心を感じ
 感謝にみちみち
 祈り心があふれ出てくる。
 神さまの心の真只中に生きる自分。
 シャワーのように
 神さまの光を浴びつづける自分。
 尊くも美しい自分を感じる。
 守護霊さん守護神さん
 愛する妻や法友神たちに囲まれ

家内への最高の感謝行

令和3年9月3日

家内を失なって
 家内の偉大さがわかった
 失ったものの数をかぞえるな
 というけれど
 どうしても数えてしまう
 そうすることは
 天界の家内のプラスにも
 地界（ちかい）の私のプラスにもならない。
 プラスにならないことはしない！
 やり直しだ！やり直し！
 消えてゆく姿のやり直しだ！
 五井先生の中に
 世界平和の祈りの中に
 改めて想いを投げ入れていこう！
 ねても覚めても祈りつづけ
 想いを祈りの中に投げ入れてゆこう
 それが家内への最高の感謝行。
 最も家内がよるこぶ行為。
 私が最も輝く行為。
 ねても覚めても祈りつづけ
 想いを祈りの中に投げ入れてゆこう

五井先生を賛美しつつ
 光の丘へ聖ヶ丘へと行進する。
 肉体界にあつて
 ハッキリと天界に足をふみ入れた
 自分を感じる。
 ハレルヤ ハレルヤ
 神をほめたたえよ！
 五井先生をほめたたえよ！
 五井先生を信じる純愛なる
 自分をほめたたえる。

ねても覚めても

令和3年9月2日

ねても覚めても
 世界人類が平和でありますように
 と祈るべし
 五井先生 五井先生と唱えるべし
 五井先生があつての私であり
 世界平和の祈りがあつて私がある。
 祈りつづけ唱えつづけ
 世界平和の祈りそのものになり
 五井先生の唱名そのものになり
 この人生を生ききりたい。

早朝の祈り

令和3年9月2日

早朝である
 まだ陽は昇っていない
 静寂の暗（くら）さである
 “世界人類が平和でありますように”
 ねながら黙って祈りはじめる
 “わが天命を完うせしめ給え
 み心のままになさしめ給え”
 五井先生と神界との約束事によって
 救世の大光明が輝く。
 その輝きを肉の眼で見たわけではないが
 五井先生を信ずるが故に
 神界との約束事を信じる。
 祈る人に救世の大光明が輝き
 この肉体を場とし窓として働き給う
 凡夫が消え去って忽ち神人となり
 神人一如の光明を放つ。
 祈っている私は五井先生の化身。
 救世の大光明の化身。
 私はただく祈る。
 私の心は静かだ
 私の心は澄んでいる。

投げ出さない

令和3年9月2日

頭がふらつき足もどがふらつき
 歩くのもむずかしくなつて来た
 ねているのが一番楽であるが
 そうなつたら寝たきりになつてしまふ
 それでは命に申訳けない。
 肉体さんに申訳けない。
 勇を鼓（こ）して
 気をしっかりと持つて立つ。
 何があろうと
 私には世界平和の祈りがある。
 五井先生の唱名がある。
 五井先生く〜と唱名し
 五井先生にすべてを委ねて生きる。
 世界人類が平和でありますように と祈つて
 救世の大光明の放射口となる。
 このまま死んでもいい などは思わない。
 救世の大光明のお働きがあるからこそ
 五井先生のご存在があるからこそ
 私は生きていられる。
 少しでもお役に立てている。
 何がなんでも生かされる間は生きる。
 生きることほつらいが諦めない。
 投げ出さない。

私の心に焦りはない。
 業の消滅は神々 仏如来がなさること
 必ず平和になると信じて
 すべてを五井先生に委せ 神のみに委せ
 ただく五井先生と神界との約束事を
 果たすだけ。
 私は祈っていればいいのか
 ただく感謝していればいいのか
 高橋藤子観世音菩薩様有難うございます
 宏昌天使様ありがとうございます※①
 秀和大菩薩様ありがとうございます※②
 ※①長男 ※②次男
 陽はまだ昇っていない
 静寂の暗さである
 私は床に横たわつたまま祈っている。



秘訣③

令和3年9月3日

新婚の時と同じように
妻に閑（かん）心を持つことだ。
その言葉 その声 服装や化粧や料理など
ありとあらゆることに
夫が少しでも関心を持っているとわかると
妻はよろこぶ。
関心を持つのは愛しているからだ
愛し愛されて
夫婦は成長する。

有難うの一言を惜まない

令和3年9月3日

奥さんをもっと魅きつけたかったら
どんなことをしてもらっても
「ありがとう」と云おう。
ありがとうの短いコトバに
大好きだということ 愛していること
尊敬しているという自分の想いをこめ
「ありがとう／＼」を連発してゆこう。
たとえば奥さんがなんの反応を示さなかった
としても
自分の心は満ち足りている。

秘訣

ひけつ

令和3年9月3日

夫婦に必要なのは
ゆるしです。
ゆるすことが出来る人は
愛しているからです。
まずあなたが
妻をゆるし
夫をゆるせば
愛は努力せずとも
自然に生まれて来ます
夫婦相和す秘訣は
ゆるしにあり。



第十二号 編集後記



今号には奥さまへの想いが書かれている詩が
たくさん載っています。それぞれに夫婦のあり方、
家族のあり方が綴られており、反省する事しき
りです。忙しいからといつも家族にも周りにも自
分にも言い訳をして、家族のことを後回しにし
ている現状を思い知らされ、そして身につまされ
ました。家族は世界人類の一番の核です。一緒に
暮す夫は勿論のこと、巣立つて行った子供たちと
その家族を思いやる心の安定した余裕を持つこ
とは、世界平和を目指す力強い大きな一歩となる
に違いありません。

2025年最初の「有難う」にこれらの詩を掲
載できましたことを、大変有難く思います。

令和七年二月吉日 O.K

編集発刊 白光真宏会 大阪支部

住所 〒550-0002

大阪市西区江戸堀2-7-32
ネオアージユ土佐堀303号

TEL 06-6444-8620
FAX 06-6444-8620